



2011～2012年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

# やらまいか

例会日 / 毎週火曜日 12:30 例会場 / 豊川商工会議所 会長 / 山城康司 幹事 / 滝下 勲 会報委員長 / 土井昌司  
事務局 / 豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889 H P / <http://toyokawahoi.tank.jp>

## クラブテーマ：心と身体を健康に

本年度第15回 通算1223回 平成23年10月18日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	10/7 修正出席率
		56名	32名	65.3%	98%

ゲスト:(なし) ビジター:メーキャップ受付19名

### 会長あいさつ

### 山城康司会長

### クラブフォーラム「被災地に対してロ



こんばんは。今日は大変素晴らしいお天気でした。今日の例会はクラブフォーラムということで、クラブ奉仕委員長さんと

プログラム委員長さんに設営して頂きました。

東日本大震災から7ヶ月が経ちました。ガレキの片づけが終わりつつありますが、まだまだ場所によっては残っているようです。もとの戻るには、ソフト面、ハード面ともに10年は掛かると言われています。我々ロータリーとして何が出来るのか、何をしていかなければならないか、皆さんで考えて頂きたいと思います。

ーターとして長期的に出来ること、中期的に出来ること、今できること」

### 趣旨説明

### 大木プログラム委員長

こんばんは。東日本大震災から7ヶ月あまりが経過いたしました。復興、復旧まならずといったところ。まだまだ収束しない原発事故。次から次への難問に心が痛みます。



そんな時、すごい勇士の方達が名乗りを上げました。発起人は、たしか70代の男性です。「細胞分裂の盛んな若者より、放射能の影響を受けにくい自分たちが現場で原発作業に携わりたい」と友人を中心に60歳以上のシニア世代に呼びかけたところ、現在500名ほど集まったと先日のニュースで報道してました。「命の大切さは知っているが、限られた残りの年月で世のためになりたい」と言った彼達の想いと行動力に頭が下がります。年齢だけが、もうじき自分も参加資格OKなのですが、体力、能力、様々の状況から出来ないことに申し訳なさを感じます。どうにかして早く落ち着いてほしいと切なる願いをしているのは私だけではないはず。本日の夜間例会は、クラブフォーラムという形を取らせていただきました。皆さん、各テーブルで東日本大震災の被災地に対してロータリークラブとして、長期的に出来ること、中期的に出来ること、今、出来ることという

### 幹事報告

### 滝下 勲幹事

例会臨時変更のお知らせ  
次回例会について

### 委員会報告

職業奉仕委員会(小田委員長)  
職場見学例会について  
国際奉仕委員会(度会委員長)  
11月15日の例会について  
ゴルフ同好会(太田幹事長)  
第2回同好会コンペ開催について

3つの視点からアイデアを出せるだけ出すという「フォーラムディスカッション」をして頂きたいと思います。

例えば、今回の被災地となった地域は、日本有数の米どころ。農家の人は土地も仕事も失いました。しかし、彼らには技術があります。そこで、全国各地の休耕地を提供してもらい、彼らが作ったコメを「東北支援米」として、地元東北に送る。これは長期的支援策です。

中期的支援としては、だいぶ片づけられたといっても、まだ被災地では分別されないガレキの片づけや家の取り壊し、修理など、数万人規模の人出が必要となっております。今はボランティアの人たちが減少しているという報道がありました。そんな時に、豊川高校や桜ヶ丘高校が行ったような大型バスをチャーターして全国各地から現地にボランティアを輸送するという。そしてボランティアの人たちの支援を考えるということ。

そして、今できることは、自粛を自粛しましょうということ。もうすぐ忘年会等で夜の経済が活発化する季節になります。だけど「この時期に飲み会をするのは如何なものか」と自粛する考えの方もいます。それに対して「しっかりと普通に経済活動をしましょう。そして経済活動が低迷している東日本を西日本が支えましょう」という考えです。ロータリーの活動を縮小して義援金をねん出するという安易な考えは隅に置いて下さい。今、何千億という膨大なお金が義援金という名の元に浮いたままなのです。今、必要なのは、被災地で活動しているNPOの方々、ボランティアの方々の後方支援です。義援金は少し状況を見守りながら、支援する募金が必要なのではないでしょうか。義援金箱の設置ではなく、後方支援金箱の設置です。そして、誰を支援するのか明確にしなければ、これも宙に浮いてしまいます。その点をしっかりと最後まで見届ける必要があります。その他の支援活動として、本日の資料に添付しておきました。ご覧いただきたいと思います。

津波があった直後に現地入りして救援活動を始めた「め組ジャパン」という団体があります。この「め組ジャパン」は石巻市湊小学校の卒業式を手伝いました。最初はとても卒業式など出来る状況ではなかったそうです。しかし、避難所の「子供たちにエールを送ろう」という声で実現しました。最初どこでや

るか困りました。体育館はめちゃくちゃで使えない。教室は避難所になっている。図工室は津波で押し流された車と汚泥がいっぱい。そこで保護者の方々と力を合わせて図工室の車を外に出し、汚泥を洗い流し、窓を入れ替え、飾り付けをしました。校長先生から手渡された卒業証書は17日間もの間、水の中でしたが、金庫の中に入れてあったので、ほとんど綺麗な状態でした。校長先生は卒業生に、こんなメッセージを贈りました。「夢であってほしいと願っている人がたくさんいます。でも現実には現実です。変えることはできません。変えることができるのは皆さんの未来。生きていれば出来ることはたくさんあります。ここからがスタートという気持ちを持って、こんな人間になりたいという夢を持って努力を続けていって下さい。」校庭には、め組ジャパンの人、避難している人、ボランティアの人たちが数百人待ち構えていて、手でアーチをつくり36人の卒業生は、その中を歩き祝福を受けました。この時に現場に居た「め組ジャパン」の方のブログにこう書かれていました。「涙が止まらない。泣けて、泣けて、俺の涙腺が壊れました。涙が止まらない。」

被災地への支援は、形が違っててもまだまだ続けなければなりません。本日のクラブフォーラムでは、皆さんの貴重なご意見を頂戴したいと思います。皆さんのご意見は、今後の例会運営に活用させていただきます。

「泣かず、笑かず、感動させる例会」を皆様と共に作り上げたいと思います。皆さんと感動の夜を過ごしましょう。

## ニコニコボックス

加山昌弘会員	誕生日を祝って頂き
滝下 勲会員	〃
細井 勉会員	〃
来山健一会員	いろいろと祝って頂き
太田 稔会員	〃

クラブ目標：会員増強純増 2名

クラブ目標：R財団寄付額 \$100/人

現在の状況

会員増強・・・・・・・・・・純増0名

R財団寄付額・・・・・・・・・・\$10/人

会報担当者：土井昌司会員、来山健一会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。